

豊中みどりの交流会

こんな活動やっています！

みなさんのご参加
待っています！

花苗プロジェクト

花苗プロジェクトでは年間を通じ、種まきやポット上げをして、活動拠点のSEED（シード）内の花壇やメンバーの活動場所への植付けをしています。冬には落ち葉を集めて腐葉土づくりの準備など、あまり休むことなく活動をしています。水やりは当番を決めて皆でやっています。

活動日は月2回（第1土曜日・第3火曜日）で、月1回の会議では活動内容等を決めています。活動や会議は和気あいあいで行っています。悩みはメンバーが少なくなっていることです。みどりに興味のある方は是非、参加してみてください。参加してみようという方は、市役所公園みどり推進課までご連絡ください。

地域緑 Book プロジェクト

私たちのプロジェクトでは、みどりの活動をされている団体に体験参加して、地域緑 Book を作成しています。「私たちの活動を取材してほしい」「自分たちの活動を多くの方々に紹介したい」とお考えの団体の皆さん、お知らせください。

みどりの学習プロジェクト

みどりについて広く学ぶ視点から、ヒント集の作成、見学会などを行っています。皆様にみどりについて学んでいただけるよう、更に取り組んでいきます。たくさんのご参加お待ちしております。

みどりのカーテンプロジェクト

今年度は、みなさんのご協力をいただき小学校30校、幼稚園、保育所（園）、障害者施設、高齢者施設、市関連施設等、たくさんの方々に参加していただきました。

温暖化の影響か、6月13日に豊中で39.7℃の猛暑日を迎えたり、9月には台風の影響で大雨となりました。また、10月初旬に豊中で116年ぶりの真夏日を迎える等大変な一年でしたが、みどりのカーテンづくりも学校等各所で独自の取り組みもあり変化した内容がみどりのフォーラムで展示したパネルで見受けられ、うれしく励まされました。

2014年度は、さらに多くの皆さんにご参加いただきたいと思います。

『みどりのつどい』のご案内

■日時：平成26年3月2日（日）

10:00～12:00

■場所：花とみどりの相談所
（豊島公園内）

■内容：話題提供



【編集後記】

豊中みどりの交流会主催のみどりのフォーラムの実行委員長をさせていただきましたが、大変な経験でした。実行委員長となったのは二回目ですが、舞台に立つと緊張で固まってしまう、原稿はあるものの、何を讀んだか自分でもわからないほどでした。

交流会活動では、小学校に行き、ゴーヤのカーテンの育て方を指導しました。四年生の子どもたちに生き物の大切さや育て方の苦労を味わってもらえたかな。毎日水やりすることがゴーヤにとって大事なことや、つるが伸びていく様子を見て生き物のたくましさを知り、ゴーヤの实がなると感動してもらえたかな。

これからも、小学生とともにゴーヤのカーテンづくりを体験できることが嬉しいですね。（寺島）

寺島実行委員長
お疲れさまでした！



豊中みどりだよりは、みんなで、どんどん、りょっか（緑化）しよう！という意味を込めて、豊中市でみどり活動を進められている方に向けて発信するニュースです。

niga

Toyonaka Green Action

特集 みどりのフォーラム2013



▲意見交換会



▲パネル展示



▲事例発表



▲花苗のポット上げ体験

『みどりのフォーラム2013』を開催しました！

■「つなげよう 人とみどりの“わ”」をテーマに10月14日、中央公民館で開催しました。

おかげさまで、たくさんの方にお越しいただき、盛況のうちに終えることができました。

▼基調講演：片山 雅男さん（夙川学院短期大学教授）「人と緑の関わり方について」

▼事例発表：豊中みどりの交流会、豊中市環境部公園みどり推進課

▼パネル展示：市内小学校（29校：原田・西丘・豊島西・北条・豊島北・刀根山・東丘・桜井谷・庄内西・新田・北丘・北緑丘・寺内
蛭池・大池・克明・緑地・中豊島・豊南・野田・庄内・南丘・豊島・箕輪・小曾根・桜井谷東・新田南・野畑・桜塚）
市内保育所（原田・豊南・庄内・本町・野田・北緑丘・東丘・高川・旭丘・栄町）、ゆたか保育園、ひかり保育園
せんなり幼稚園、春日荘聖マリア幼稚園、豊中文化幼稚園、第十五中学校、豊中自動車教習所
豊中緑化リーダー会、リサイクル工房竹炭塾、豊島北ビオトープクラブ、親和自治会、上野連合花壇同好会
豊中駅前まちづくり推進協議会、親和自治会、豊中親和会第2みらい、豊中愛和会あすなる
豊中きらら福祉会きらら作業所、幸楽の里、くらしかん、東豊中地域福祉活動支援センター
柴原老人福祉センター、環境センター北部事業所、豊島体育館、消防本部、原田学校給食センター
ふれあい緑地テニスコート、環境部環境政策室、豊中みどりの交流会（順不同）

▼体験コーナー：花苗のポット上げ体験、ペットボトル工作、ペーパークラフト

特集：みどりのフォーラム2013

基調講演

『人と緑の関わり方について』（概要）

1) 身近な自然の重要性

人生の熟年期を迎えた時に懐かしく思えるふるさとの景観のように、遠くの世界遺産となっている自然よりも、日常、目にする身近な自然は私たちにとって重要であるが、人々はその価値を見落としがちで、気づいた時にはなくなってしまっていることが多い。

2) 人工的でもいつしか環境保全の対象に！

なくなった自然を取り戻すためでも、人工的なものは環境保護の立場からは多くの場合、反対される。植えるにしても切るにしても、人の手が入る時には反対されてしまう。しかし、反対運動があったとしても時間をかけることで、夙川の桜並木のように「日本さくら名所100選」に選ばれるほどの重みのある自然となることもある。

3) 人工の森も立派な自然林風に

ここで、画期的な造園計画として伝えられている事例を紹介する。現在、うっそうとした森になっている明治神宮の森だが、元々は何もない荒地だった。旧彦根藩主であった井伊家の下屋敷を買い上げて、朝鮮半島や台湾からの献木365種約12万本によってつくられた人工の森であるが、単に見栄えの良いものではなく、自然の森の植物遷移にならって様々な樹種を植えたことで、まさに「鎮守の森」と言えるような姿になっている。

4) 里山林は本当にふるさとの森か？

今、流行している里山は実は、自然の森ではない。実際、京都の森には、地元の人々によってクヌギが多く植えられ、利用されている。弥生の頃から千数百年かけて人々がつくりあげてきた森は保全の意識が非常に高く、いろんな活動がなされている。そうした事例として豊中にも島熊山があり、保全活動が行われていると聞いた。人々が膨大な時間をかけてつくった里山のような森は、これからも大事にしていくべきだと思う。

5) 豊中の自然とは…みんなで考えてみよう

大阪府の北部に位置する豊中市は、大阪平野から箕面に続く丘陵地域であり、急速に市街化した地域で、みどりが少ない。このような環境では、子ども達が自然に親しみ、学ぶのはなかなか難しい。とはいえ、植物相は比較的平凡だが、800種類以上の植物が生育し、島熊山や待兼山などを含む丘陵地のため池には絶滅危惧種のようなものが残っていることが多い。地域性の強い、その土地特有の植物が残存しているので、こういったものは残していかなければならない。

6) わずかに残された自然をいかに残していくか

「みどり」はあればいいというものではなく、何を植えるか、どのような森をつくるか、どんな風にしたら100年後に価値が出るかを考えることが大切だと思う。

豊中市にある千里緑地は、みどりが続いていて途切れていないのが非常に良い。その中に「タヌキ出没注意」の看板を見つけたが、動物は森と森が分断されていると生きていけないので、千里緑地のような森は「緑の回廊」として動物も植物も広く移動することができる環境になっている。これから私たちは、地域に残った自然を保全しつつ、かつてあった自然を復元していくべきだと思う。

●片山 雅男さん(夙川学院短期大学教授)

京都市生まれ。京都大学大学院理学研究科博士課程植物学専攻、京大大学生態学研究センター研修員を経て、現職。夙川学院短期大学教授。グリーンセイバー検定委員(樹木・環境ネットワーク協会)。NPO 環境市民理事。専門は植物生態学、環境教育学で、主に樹木の植物季節学や京都深泥池の湿原植物の生活史、里山の植物について調べている。また、京都御苑や京都西山をはじめ、各地で自然観察会や野外活動をおこなっている。



パネル展示

市内小学校や施設などによるみどりのカーテンづくりの取り組みについて作成していただいたパネルを展示しました！



ご協力
ありがとうございました！

力作がいっぱい！



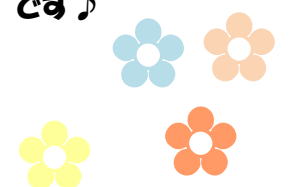
体験コーナー

花苗プロジェクトで育苗した花苗のポット上げ体験やペットボトルを利用した鉢づくり、ペーパークラフトを行いました！

花苗のポット上げ体験



花苗プロジェクトで
育苗した
パンジーとナデシコ
です♪



ペットボトル工作&ペーパークラフト

